<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名：
水泳</td><td rowspan="2">教員の免許状取得のための必修科目</td><td rowspan="2">単位数：
１単位</td><td>担当教員名：髙木由起子・石倉恵介・金沢翔一・浅井泰詞・高野千春</td></tr>
<tr><td>担当形態：オムニバス</td></tr>
<tr><td>実務内容
（実務家教員の場合）</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校保健体育）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める
科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項
体育実技</td></tr>
</table>

「学位授与の方針」との関係

共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ

（１）水の特性には、陸上での運動と比較して水の物理的特性がある。浮力、抵抗、水圧などの影響を受けながら、浮く、呼吸する、進むことを理解する。

（２）４泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）を身につける。

（３）水泳授業での安全管理及び指導と水難事故の原因と防止策を学び理解を深める。

授業の概要

水中での運動は、日常生活（陸上）とは異なった環境であり、自身の泳ぎが確認しにくいことからＩＣＴを使って動作を確認し、泳ぎの技術を深めていく。また、水泳の授業内で起こるプールサイドでの事故や飛び込み事故、海、河川での溺死が多いため、水泳授業での安全管理及び指導と水難事故の原因と防止策を学び理解を深めていく。

授業計画

第１回：水の特性と安全管理

第２回：共通技術：水慣れと水中での呼吸法（ボビング）及びストリームライン

第３回：クロールの泳法技術：キック

第４回：クロールの泳法技術：プル動作

第５回：クロールの泳法技術：コンビネーション

第６回：平泳ぎの泳法技術：キック

第７回：平泳ぎの泳法技術：プル動作

第８回：平泳ぎの泳法技術：コンビネーション

第９回：共通技術：水中スタートとターン（タッチターン、クイックターン）

第１０回：背泳ぎの泳法技術：キック及びプル動作

第１１回：背泳ぎの泳法技術：コンビネーション

第１２回：バタフライの泳法技術：キック及びプル動作

第１３回：バタフライの泳法技術：コンビネーション

第１４回：水難事故の原因と防止策、対応

第１５回：まとめ

定期試験（実技試験）

スクーリングでの学修内容 １．クロールを 50M 泳げる泳力を身に付けること。また、泳法・技術を深めていく。 ２．平泳ぎを 50M 泳げる泳力を身に付けること。また、あおり足にならない泳法・技術を深めていく。 ３．背泳ぎ・バタフライの段階的指導法を身につけ、25M 泳げるようになること。 ４．クイックターン、タッチターンの違いを学び段階的指導法を身につけ、実技試験で実施する。 （主に、３~９回の内容を含む。）
教科書 公益財団法人　日本水泳連盟　編「水泳指導教本　公認コーチ１・公認コーチ２用」三訂版 大修館書店
参考文献 特に指定しない。必要に応じて適宜配布する。
学生に対する評価 実技試験を実施する（クロール、平泳ぎそれぞれ50M)。スクーリング評価（２０％）実技評価（８０％）の割合で総合して評価する。